

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和年日 8 3 月 23

札幌市立 北白石小学校

1 今年度の重点目標

自分の良さを認め 相手の良さを認め 相手から認められる きたしろの子に

2 本年度の経営方針

先生も子どももふたつの「聴き合い」で自分がたいせつにされていると実感できる学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の 適切さ	改善策の 適切さ
人間尊重の教育	子どもたちの相互承認の感度を高めるために、特別活動や児童活動（委員会・クラブ・七色活動）の充実を図っていたか。	B	委員会やクラブ活動、七色活動を通して、異学年交流の充実を図る。また、七色活動の回数を増やし、各学年に役割をもたせることで、相互承認の感度を高める。	B	A
	子どもたちが「だ」「い」「じ」を意識した挨拶や互いの考えを聴き合える取組の工夫はしていたか。	B	学年、学級一人ひとりがそれぞれのテーマについての振り返りを行う場を設ける。週の初めや終わりなど定期的に見直しを行うことで子どもたち自身の意識付けの定着を図る。	B	A
いじめ対策自治的な活動	いじめの未然防止のために、自他を尊重する態度の育成や児童会による子どもの自治的活動の推進をしていたか。	B	日頃の学習では聴き合いを大切にし、子どもの自己有用感を高めることに努める。また、振り返りでは自他の頑張りが出表するような形で取り組み、相互承認が高まる教育活動を進めていく。 児童活動を通し、他学年との交流を図ることで、相手に応じた態度や言葉遣いを養う機会を増やしていく。	A	A
いじめ対策	「心の健康観察アプリ」の活用、アンケート調査や面談を基に保護者との情報共有を図るなどいじめの早期発見に努めていたか。	B	年 4 回のアンケート調査を引き続き行うとともに、個人懇談の日程とリンクさせて保護者との情報共有の充実を図る。また「心の健康観察アプリ」を担当と担任外の複数で確認し、子どもたちの変化に早く気付ける体制を整え、いじめの早期発見につなげる。更に、いじめの未然防止のためにいじめ基本方針にある「発達支持的生徒指導」を日常的に実施する。教育活動の中で特に、全員参加とふりかえりを重視して取り組むことをその手立ての一つとして位置付ける。	B	A
	事実関係の正確な把握と情報整理をはじめ、解決に向けて学校として組織的に対応していたか。	B	次年度も情報共有フォルダを作成し、記録化の徹底を推進していく。また、北白石小学校いじめ防止基本方針に則り、いじめ防止対策委員会を中心に学校として組織的に対応していく。	B	B
子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援・教育	子ども一人一人の教育的ニーズ（特別支援教育、不登校支援）に応じるために、特別支援教育コーディネーターや学年と連携して、組織的に対応していたか。	A	学びの支援委員会やいじめ対策委員会を定期的に実施し、特別支援コーディネーターを中心に学校内での情報共有に努め、さらに SC や SSW の専門的な知見を参考にしながら組織的に対応していく。更に、指導の在り方について、適切なスパンで研修し、指導方法についても高めていく。	A	A
「学ぶ力」の育成	「子どもが問いをもつための手立て」「子どもが「わかった」を実感できるための手立て」を基に、「全員参加！主体的に学ぶ子どもの育成」の実現に向けた授業改善をしていたか。	B	次年度に向けて、「全員参加」できるようになるには、具体的にどのような手立てが有効かを検討していく。また、教員同士での授業参観、授業検討を重ねていく。	B	B
	子どもたちが「分かりたい」「やってみよう」という思いをもつために、学習基盤が身に付く取組を十分にしていたか。	B	全学年が整った学習基盤となるように、話すこと・聞くこと・振り返りにおいて、「きたしろスタンダード」として設定する。	B	B

「豊かな心」の育成	互いに尊重し、支え合っていこうとする態度を育むために、「特別な教科道徳」を中心に、各活動において道徳教育の十分な推進をしていたか。	B	特別な教科道徳の指導計画の見直しと充実を図る。また、子どもたちに学校生活において自分の役割を意識させることで、相互承認の感度を高めていく。また、異学年交流の取組方を見直し、学年ごとの目的を明確にし、相手意識の醸成につなげる。子ども自身が「気付き、考え、行動できる」指導体制を目指す。	A	A
-----------	---	---	---	---	---

「健やかな体」の育成	子どもたちが自らの健康の保持増進を図るための保健教育・安全教育・食に関する指導の推進を十分にしていたか。	B	本年度の全国体力・運動能力・運動週間等調査のアンケート結果、朝食を毎日食べる児童が76%に留まり、全国平均を下回っているため、次年度は、食に関する調査による実態把握や給食を生きた教材として活用することで、「食」への正しい知識や習慣を育む指導の充実を図る。また、健康診断や「心と体の学習」、保健だよりを通して自分の体を大切にしようとする気持ちの醸成を図る。	B	B
	体育の授業や授業以外で子どもたちの運動意欲を高める取組の工夫はしていたか。	A	「仲間・時間・空間（三間）」の創出による運動機会の充実を図るために、次年度も引き続き、中・外遊び週間を設置したり、委員会活動と連携を図ったりする。また、運動に取り組める場の確保や道具の提供を行う。	A	A
ICTを活用した教育の推進	情報モラルの充実を図り、ICTを適切に用いて情報を収集、整理、比較、発信できるような取組の工夫はしていたか。	B	6年間の情報教育カリキュラム計画を作成し、課題探究的な学習や自治的な活動、情報モラルやプログラミングといった情報活用能力の育成の充実を図っていく。また、「すぐーる」などで保護者にも情報モラルに対する啓発活動を行っていく。	B	B
札幌らしい特色ある学校教育	子どもたちの知・徳・体の調和のとれた学びを推進するために、【雪】【環境】【読書】を意識した教育活動を進めていたか。	B	札幌らしい体験的な学習を行うため、札幌市にある公共施設の活用を行う。また、芸術体験事業にも応募し、経験を積める場の設定を行う。読書については、本校の図書ボランティアと協力し、読み聞かせやおすそめの本紹介など子どもたちが本に触れる機会を増やしていく。	B	B
家庭や地域との連携・協働	家庭や地域に向けて学校HPや「すぐーる」での情報発信、懇談会などでの話題提供で連携を図っていたか。	A	次年度も学校HPや「すぐーる」での情報発信を継続して行う。家庭や地域の声が教育活動に反映できるように、アンケートの実施や懇談会の内容の充実を図る。また、コミュニティ・スクールの実施に向けて、パートナー校と連携し、取組を推進していく。	B	A
学校関係者評価委員会による意見		1. 集団生活を通じた社会性と学習意欲の育成個性が尊重される時代だからこそ、学校という集団生活でしか学べない社会性や協調性の指導を継続してください。また、多様な背景をもつ子どもたちが、一つでも多くの「学び」に興味や意欲をもてるような、きめ細やかな学習指導の充実を期待します。 2. 地域と連携した防災意識の醸成町内会の防災訓練などへの参加を通じ、子どもたちの防災意識の向上、他者との協力、高齢者の避難支援への関心を高める機会を大切にしてください。地域社会での実体験が、共助の精神を養う貴重な場となります。 3. 学習評価・改善策の可視化について現在のABCによる達成状況評価のみでは、具体的な「できること・できないこと」や、改善方策とのつながりが不透明です。保護者や地域が子どもの成長と課題を明確に把握できるよう、より伝わりやすい評価・説明の工夫を求めます。			
学校独自に設定する分野	教育活動の精選を図るために、会議等に向けて、提案内容を吟味したり、振り返りの要点を精査したりして効率化を図っていましたか。	B	「自律（振り返り）」と「協働（全員参加）」を柱にPDCAを行う。会議のグラウンドルールを設定し、進め方や事前準備の方法を見直し、効果的かつ効率的な会議の運営を目指す。	B	B
	自分の強みを生かしたり、時間の使い方や優先順位を考えたりして限られた時間で成果を高める工夫はしていたか。	A	校務分掌の業務の平準化、学年では各先生の強みを生かした業務分担を推進する。また、学びのサポーターや外部講師等の活用することで、心理的安全性が確保され、専門性も高まり、子どもの学びがより深まる教育活動を目指す。	B	A
学校関係者評価委員会による意見		1. 実効性のあるコミュニティ・スクールの推進 「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」の導入・実施にあたっては、子どもたちのニーズを十分に吟味し、形だけに終わらない、実効性と効果が目に見える具体的な取り組みの展開を強く望みます。 2. 教育環境の整備と教員の定数増に向けた働きかけ子どもたち一人ひとりに寄り添った質の高い教育を実現するためには、教員の精神的・時間的なゆとりが不可欠です。教員不足の解消と教員定数の増加を目指し、予算確保を含めた国（文部科学省）への積極的な要望・働きかけを検討してください。 3. 多様な困難を乗り越える教育目標の達成教員不足や価値観の多様化など、学校を取り巻く環境は厳しさを増していますが、掲げた教育目標の実現に向け、全校一丸となって取り組んでいくことを期待します。			